

【フロンティアスクール用中間報告様式】中学校用

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要（平成14年4月現在）

品川区立荏原第三中学校						
	1年	2年	3年	計	教員数	
学級数	3	3	3	9	19	
生徒数	97	106	103	306		

実践研究の概要

1. 主題（テーマ）

少人数の学習集団による指導の推進でより確かな学力を培う。

2. 内容与方法

(1)実施学年・教科

1年生数学（生徒の理解度に差が生じやすい教科であると同時に、習熟度別指導の先進的取組実績があるため）

(2)年次計画

平成14年度	テーマ	数学の習熟度別指導を通して、つまずきの自己解決力を身に付けさせる。
	仮説	生徒に自らのつまずきに気付かせ、自己解決する力を身に付けさせる指導は確かな学力の定着を保證することになる。
	研究内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を高める学習集団の編成方法を探る。 ・個別指導の徹底を図り、学習の仕方の習得支援の方法を探る。 ・自己課題に気付かせる工夫と習熟度に合った教材を開発する。 ・考え方を表記する指導と振り返りから学ぶ指導を重視する。

平成15年度	テーマ	数学の学習を通して課題解決力を身に付けさせるための指導方法を研究する。形態と少人数指導の在り方を探る。
	仮説	学習内容と生徒が起こす多様なつまずきに対応した指導を行えば生徒の課題解決力はより応用力のある力へと高まる。
	研究内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と多様なつまずきに応じた指導形態の在り方を探る。 ・教員間の連携の在り方を探る。（小学校教員との連携も含む） ・多様なつまずきに応じた教材を開発と集団編成の工夫をする。 ・生徒の学習を支援する方法を工夫する。（授業外の活用も含む）

平成 16 年度	<p>テーマ 確かな学力を保证するための学習支援の在り方を探る。</p> <p>仮説 生徒に学習の仕方の習得と学習の習慣を確実に定着させることが学力保証の力となる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携による学習内容の連続性の在り方を明らかにする。 ・課題解決意欲を高めさせる支援の方法を明らかにする。 ・自己評価能力を高めさせるなど、既得の学習の仕方を活用させるための指導の工夫をする。 ・小中連携の機能を高める工夫をする。
----------------	--

(3)研究体制

<p>本校には次の2つの組織を置き研究推進に当たる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロンティア事業推進事務局 (小中連携に関わる研究推進 校長、教頭、研究主任) ・学力向上数学委員会(校長、研究主任、数学科教諭)
--

平成15年度の成果及び課題

<p>成果 1年生の姿として次の成果が現れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のほぼ全員(93%以上)の生徒が途中計算のプロセスを記述して計算を進めることができるようになった。 ・また、計算のつまずきの見直しからつまずきの原因を発見でき、75%の生徒は確実に学習の仕方を身に付けた。 ・習熟度別学習のためのグループ編成は生徒の希望により編成しているが、全員の生徒が自分の習熟度に合ったグループを選んでいる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導の成果の客観的な評価方法 ・「学習内容理解状況連絡カード」を活用した学習意欲向上のためのシステムの運用と充実
--

学力把握のための学校の取組について

<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容理解状況連絡カードの作成と活用 ・学力調査の実施(予定である)

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・リーフレットを作成し、区内小中学校に配布する。
- ・区の関係研究会で取組内容及び成果を報告する。
- ・情報の提供を依頼する学校に対しては、可能な範囲で対応し情報を提供する。